

# 北陸新幹線開業が金沢の観光事業に与えた影響

青 木 亮

## 1. はじめに

観光需要の決定要因には、観光商品の価格や観光客の所得など直接的な要因以外に、様々な事項が影響を与えている。要因の1つに目的地までのアクセスがある。交通インフラの整備に伴うアクセス改善は、所要時間短縮や快適性向上などを通じて人々の観光行動に変化をもたらすが、本稿では北陸新幹線開業の効果を金沢への観光事業への影響からみていく。整備が北陸地方にもたらした経済効果については、すでにいくつか分析がなされているが<sup>1)</sup>、本稿では金沢における観光事業への影響に絞って、定性的な分析を行う。

まず2節で北陸新幹線開業の経緯を述べた後、石川県の統計やアンケート結果をもとに新幹線開業に伴う観光事業への効果を概観する(3節)。4節では近年のコロナ禍の影響を同様に見て、最後(5節)に簡単な総括を行う。

## 2. 北陸新幹線の開業

北陸新幹線は、全国新幹線鉄道整備法(昭和45年法律第71号)の基本計画路線のうち、整備計画決定された線区の1路線である。昭和48年11月に東北新幹線(盛岡—青森間)、北海道新幹線(青森—札幌間)、九州新幹線(福岡—鹿児島間、および福岡—長崎間)とともに北陸新幹線(東京—大阪間)の整備計画が決定された。北陸新幹線の高崎—長野間は平成10年2月に長野で開催された第18回オリンピック冬季競技大会に間に合わせるべく平成9年10月1日に開業した(当時の愛称は長野行き新幹線)。長野—金沢間は、一部区間でスーパー特急方式による整備が計画されるなど紆余曲折を経て、全線フル規格での整備が決まり、長野—金沢間が平成27年3月14日に開業している。現在は金沢以西の区間で工事が進められており、金沢—敦賀間は令和6年3月開業を予定する。北陸新幹線の正式な区間は高崎—上越妙高間(176.9km)が東日本旅客鉄道(JR東日本)、上越妙高—金沢間(168.6km)が西日本旅客鉄道(JR西日本)になるが、上越新幹線の高崎—大宮間、東北新幹線の大宮—東京間を含め、実際の列車運行は東京—金沢間(450.5km)で行われている。

金沢までの開業にはかなりの時間を要したが、開業に伴い首都圏と北陸地方のアクセスは大幅に改善された。金沢と首都圏(東京駅)を鉄道利用で移動する場合、従来は越後湯沢経

## 北陸新幹線開業が金沢の観光事業に与えた影響

由で在来線特急「はくたか」と上越新幹線「とき」を利用して最速列車でも3時間47分（平成26年10月）を要した（表1）。新幹線開業後は、乗換なしで最速列車の「かがやき」が2時間28分で結ぶようになった。運行本数も、新幹線開業前は金沢から越後湯沢へ向かう在来線特急「はくたか」13往復（越後湯沢で上越新幹線に接続）に対し、開業後は速達タイプの「かがやき」10本にくわえて各駅に停車する「はくたか」14本が運転される（共に開業時の定期列車本数）など、大幅に増発された。この他、繁忙期を中心に臨時列車も多数設定された。開業前後での一般化費用を時間価値36.2円/分<sup>2)</sup>から計算すると、運賃・料金の上昇以上に所要時間短縮効果が大きく、改善につながっていることがわかる。

開業前：13,050円 + 3時間47分 × 36.2円 = 21,267.4円

開業後：14,120円 + 2時間28分 × 36.2円 = 19,477.6円

表1 北陸新幹線開業前後の変化

	開業前（平成26年10月） はくたか+上越新幹線	開業後（平成27年3月） 北陸新幹線
所要時間	3時間47分	2時間28分
本数	13本（はくたか+上越新幹線） 越後湯沢乗り換え	10本（速達タイプ：かがやき） 14本（各停タイプ：はくたか） 上記以外に臨時列車、区間列車あり
運賃・料金	13,050円	14,120円

運賃・料金は通常期の普通車指定席で計算  
『時刻表』より作成

北陸新幹線は既に平成9年10月に長野まで開業していたが、金沢延伸後は利用者数も大幅に増加している（表2）。この余波を受け、開業前は鉄道と並ぶ交通手段であった航空機は、羽田—小松線の利用者は163.8万人（平成26年度）から103.3万人（平成27年度）へ4割近く減少した。羽田—小松の飛行時間は1時間10分程度（便により多少異なる）だが、東京都心から羽田空港までの所要時間と空港で保安検査場を出発時刻20分前までに通過する必要があることや、小松空港から金沢市内までの所要時間を考慮すると、飛行時間に加えて2時間程度の余裕を見る必要がある<sup>3)</sup>。このため東京—金沢間が乗り換えなしに約2時間半で結ばれたことは、航空より新幹線利用が優位な立場を占めたことになる。

表 2 北陸新幹線と航空の利用者数（千人）

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
北陸新幹線	9804	10152	12017	31842	30745	30892	31670	29426	12080	15474
航空 (東京—小松)	1572	1634	1638	1033	998	1010	1052	1045	265	408

『鉄道輸送統計調査』『数字でみる航空』より作成

### 3. 金沢観光への影響

北陸新幹線開業前後に JR や沿線自治体、旅行会社により積極的な観光キャンペーンが実施されたこともあり、金沢への観光客は増加した<sup>4)</sup>。「統計からみた石川県の観光」より石川県への観光入り込み客数の推移を見ると（表 3）、新幹線開業前後（平成 26 年と平成 27 年で比較）に石川県全体で 15.8% 増加している。さらに石川県を金沢地域、加賀地域、白山地域、能登地域に分けてみると、金沢地域と能登地域で 2 割近い増加が生じる一方、加賀地域と白山地域では増加率は 10% に満たないこと、さらに開業直後のブームが落ち着く平成 28 年には金沢地域を除く 3 地域で入り込み客数が減少を記録した。一方、金沢地域は 2.7% 増加している。金沢地域の入り込み客数は翌 29 年に 1.1% 減少したものの、その後はコロナ前の令和元年まで増加し続けた。このことから新幹線開業の観光への影響は、石川県内でもほぼ金沢周辺に集中していることがわかる。

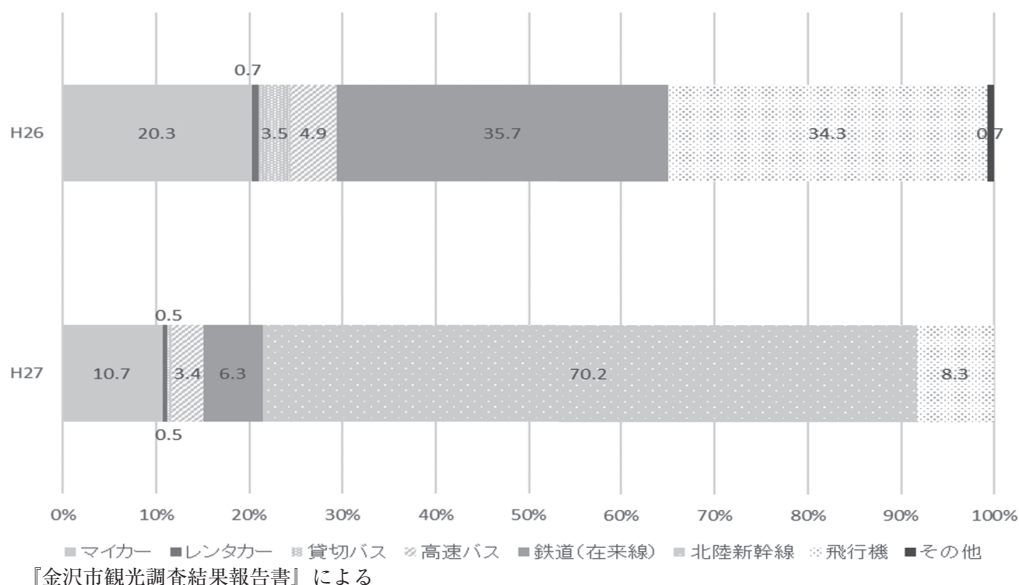
表 3 石川県への観光入り込み客数（千人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
金沢地域	8239	8442	10064	10335	10221	10445	10676	5471	5187	8638
加賀地域	5375	5345	5806	5580	5695	5779	5574	2746	2368	3419
白山地域	913	893	945	896	979	948	968	702	749	772
能登地域	7104	6932	8203	7778	7858	7743	7681	4332	4003	5423
総数	21632	21611	25018	24589	24753	24915	24899	13251	12307	18252

『統計からみた石川県の観光』より作成

金沢周辺の影響を「金沢市観光調査結果報告書」から詳しく見ていく。「金沢市観光調査結果報告書」は、繁忙期と閑散期にそれぞれ金沢を訪れる観光客を対象に金沢駅や金沢城、ひがし茶屋などで実施しているアンケート調査である（表 4）。観光客の一部を対象とする抽出調査であり、特殊要因の影響を受ける可能性がある。調査項目は、来訪回数や利用交通

図1 関東地方からの交通手段変化



手段、周遊地、宿泊日数、満足・不満な事項などで、観光の実態把握を目的にしている。調査年ごとに多少、設問等が異なる。また前述の「統計からみた石川県の観光」とは調査対象や手法が異なっている。

まず新幹線開業の効果として金沢への利用交通手段の変化を見る（表5）。新幹線開業前の平成26年は鉄道利用が29.6%、航空利用が18.0%に対して、開業後（平成27年）は新幹線を含む鉄道利用が56.1%に増加する一方、航空利用は10.1%へ減少している。当然ながら、この効果は、北陸新幹線金沢延伸の影響を強く受ける関東地方で顕著である（図1）。関東地方から金沢へのアクセスは、新幹線開業前は鉄道利用35.7%に対し航空利用が34.3%とはほぼ同比率であったが、開業後は鉄道（在来線）と新幹線で合計76.5%を占め、航空利用は8.3%まで減少した。この他の交通手段はマイカー（10.5%）や高速バス（3.4%）などである。また中部地方や関西地方を出発地とする利用者で、鉄道利用者の一部が北陸新幹線に移転しており、中部地方からは15%程度（長野県から、ないし首都圏などと組み合わせた周遊観光と考えられる）、関西地方からも数%（周遊観光と想定される）が、北陸新幹線を利用している。ちなみに、中部地方と関西地方からの交通手段では、新幹線開業後もマイカーの比率が最も高いが、前年の平成26年と比較すると比率は低下している（中部地方72.6%→61.4%、関西地方46.9%→43.6%）。関連して、金沢観光の出発地については、距離や人口規模から、新幹線開業以前から関東、中部、関西の3地方が約9割を占めるが、平成27年以降は新幹線開業でアクセスが大幅に改善した関東地方からの観光客が増加した（表

表 4 金沢市観光調査結果報告書の概要

	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
調査日時	10月10日(土)	9月22日～	8月11日～	10月6日～	8月～12月	8月～12月	8月～12月	9月～12月
	10月11日(日)	10月23日	9月10日	11月4日				
	10月17日(土)	11月19日～	2月3日～	2月2日～				
	10月24日(土)	12月18日	3月11日	3月3日				
延日数	4日	62日	24日	22日	18日	18日	23日	24日
サンプル数	417	1181	950	850	1002	972	922	898

『金沢市観光調査結果報告書』より作成

表 5 金沢までの交通手段 (%)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
マイカー	42.6	41.8	25.9	19.5	20.3	15.1	19.2	25.2	21.8	21.8
レンタカー	1.2	1.4	1.0	2.0	1.6	1.4	0.8	1.1	1.3	1.9
貸切バス	3.9	4.8	2.2	2.6	2.7	1.6	1.0	0.2	0.4	3.3
高速バス	5.1	3.6	4.8	4.9	5.8	7.1	6.6	3.2	5.4	0.7
鉄道(JR)	33.1	29.6	13.7	22.8	25.6	27.2	19.8	18.6	16.8	17.4
北陸新幹線	-	-	42.4	40.9	38.5	38.6	41.6	44.0	45.9	45.1
飛行機	13.4	18.0	10.1	6.2	4.0	7.6	9.4	6.9	8.0	9.2
その他	0.7	0.7	0.0	1.1	1.5	1.3	1.7	0.7	0.4	0.5

『金沢市観光調査結果報告書』による

表6 金沢観光の出発地 (%)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
北海道	1.9	3.1	1.2	1.4	1.4	0.9	1.4	0.6	1.1	2.0
東北	3.4	3.6	4.4	4.4	3.2	3.1	4.8	1.5	1.5	1.6
関東	32.8	34.4	50.0	46.5	50.8	46.7	43.2	50.7	52.6	47.4
中部	33.8	29.8	21.5	25.2	21.2	24.1	23.4	20.3	21.0	24.1
関西	20.9	19.5	13.4	15.2	18.4	18.6	19.9	23.6	18.8	17.6
中国	2.4	3.6	2.7	2.4	1.9	1.9	3.0	1.3	1.8	3.8
四国	1.2	1.4	1.5	1.5	0.2	1.5	1.7	0.4	0.3	0.3
九州・沖縄	2.7	3.8	5.4	3.3	2.9	3.2	2.7	1.5	3.0	3.2
外国	0.7	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-

『金沢市観光調査結果報告書』による

6)。

金沢市内の観光地の利用者数にも注目しよう。観光客が訪れる金沢市内の観光地としては、金沢城・兼六園、茶屋街（ひがし、主計、にし）、近江町市場が3大有名観光地であり、これに現代美術を展示する金沢21世紀美術館や長町武家屋敷跡が続く。報告書から金沢市内の主要19観光施設をみると、利用者数は兼六園と金沢城公園、金沢21世紀美術館の3箇所が圧倒的に多く、例年、統計を取っている市内19施設の全利用者のほぼ8割以上を占める（表7）。さらにこの3施設に加えて、利用者が比較的多い県立美術館、県立歴史博物館、県立伝統産業工芸館、武家屋敷野村家、志摩（ひがし茶屋にあるお茶屋）、妙立寺（通称：忍者寺）の6施設を加えた、全体の約半数にあたる9施設で利用者全体の95%程度になる。金沢の観光施設の利用者は、従来から特定の有名施設に集中する傾向があったが、新幹線開業により訪問者数が増加しても、その傾向に変化はない。アンケート調査では、周辺の観光地への周遊状況についても質問しているが（表8）、例年「金沢市内のみ」との回答が全体の半数程度を占めており、むしろ近年は金沢のみの観光客が増加する傾向にある。石川県内でも能登地方や加賀地方への周遊は10%前後である。隣接する富山県や福井県へは開業直後は10%程度を示したが、近年は10%を下回る水準にとどまっている。「統計からみた石川県の観光」で入り込み客は金沢地域に集中していることが示されたが、アンケート調査からも裏付けられている。観光客の周遊を目的に、隣接する観光地や自治体は様々な取り組みを実施しているが、成果を得るにはまだ道半ばと言える。交通アクセスの改善は、北陸地方へ旅行するきっかけの1つにはなるが、観光客増加が金沢から周辺地域への観光につながる訳でないとと言える。

日帰りか宿泊か、さらに宿泊の場合の宿泊地を見ると（表9）、関東圏からの観光客が増

表 7 金沢市内の観光施設利用者数 (人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
主要 19 観光施設利用者数 (注 1)	5,339,945	5,979,183	9,032,586	9,491,060	9,031,509	9,048,836	9,155,285	4,126,754	3,553,114	6,165,550
兼六園, 金沢城, 21 世紀美術館	4,189,060	4,888,780	7,363,440	7,801,566	7,451,049	7,443,017	7,694,596	3,410,764	2,941,269	5,254,033
%	78.4	81.8	81.5	82.2	82.5	82.3	84.0	82.7	82.8	85.2
県立美術館, 県立歴史博物館, 県立 伝統産業工芸館, 武家屋敷跡野村家, 志摩, 妙立寺	933,203	863,015	1,359,382	1,391,584	1,282,598	1,318,767	1,172,464	580,117	527,468	746,758
%	17.5	14.4	15.0	14.7	14.2	14.6	12.8	14.1	14.8	12.1

注 1 : 兼六園, 金沢城公園, 金沢 21 世紀美術館, 県立歴史博物館, 県立歴史工芸館, 安江金箔工芸館, 中村記念美術館, 武家屋敷跡野村家, 老舗記念館, 前田土佐守家資料館, 志摩, 泉鏡花記念館, 金沢蓄音器館, 妙立寺, 西茶屋資料館, 室生犀星記念館, 大野からくり記念館, 金沢湯涌夢二館の 19 施設 『金沢市観光調査結果報告書』による

表 8 周遊観光地の状況 (%)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
金沢のみ	-	-	54.9	45.8	47.8	53.9	65.8	71.0	68.5	64.6
能登 (輪島, 和黒温泉)	25.4	24.9	16.8	14.1	14.5	11.4	10.8	9.1	11.3	14.7
加賀 (加賀温泉郷)	18.1	22.0	5.0	7.3	7.7	8.4	10.3	8.8	7.6	10.7
白山 (白峰, 鶴来)	0.9	1.4	0.2	1.0	0.9	1.2	0.3	0.9	0.9	0.4
富山 (氷見, 富山, 黒部)	13.4	11.5	8.7	10.5	13.3	10.9	7.7	6.3	7.7	7.5
福井 (永平寺, 東尋坊)	16.8	21.5	7.1	9.6	8.2	7.2	5.8	4.1	6.0	6.2
岐阜 (高山, 白川郷)	18.1	16.3	5.6	7.1	5.6	7.2	1.1	2.3	2.1	3.2
長野	-	-	-	-	-	-	1.1	1.2	1.3	1.7
その他	7.3	2.4	1.7	3.0	3.5	3.6	2.7	2.0	3.0	2.1

『金沢市観光調査結果報告書』による

表 9 宿泊状況 (%)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
日帰り旅行	13.4	11.8	12.2	13.2	10.4	11.6	9.0	7.9	8.8	5.8
金沢市内のみ宿泊	50.4	51.9	48.9	57.2	59.4	62.2	63.0	67.8	69.6	67.9
金沢市内と他地域で宿泊	3.4	15.4	16.5	17.8	15.8	12.1	15.6	14.3	15.0	17.7
他地域で宿泊	32.8	20.9	22.3	11.9	14.4	14.0	12.5	10.0	6.6	8.6

『金沢市観光調査結果報告書』による

表 10 地域別宿泊施設数 (軒)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3
金沢地域	137	133	133	140	140	168	219	275	333	406	408
加賀地域	121	116	114	111	101	110	114	107	118	123	126
白山地域	77	62	56	62	51	45	45	44	47	49	55
能登地域	315	303	286	307	264	263	267	267	279	288	315
総数	650	614	589	620	556	586	645	693	777	866	904

『統計からみた石川県の観光』による

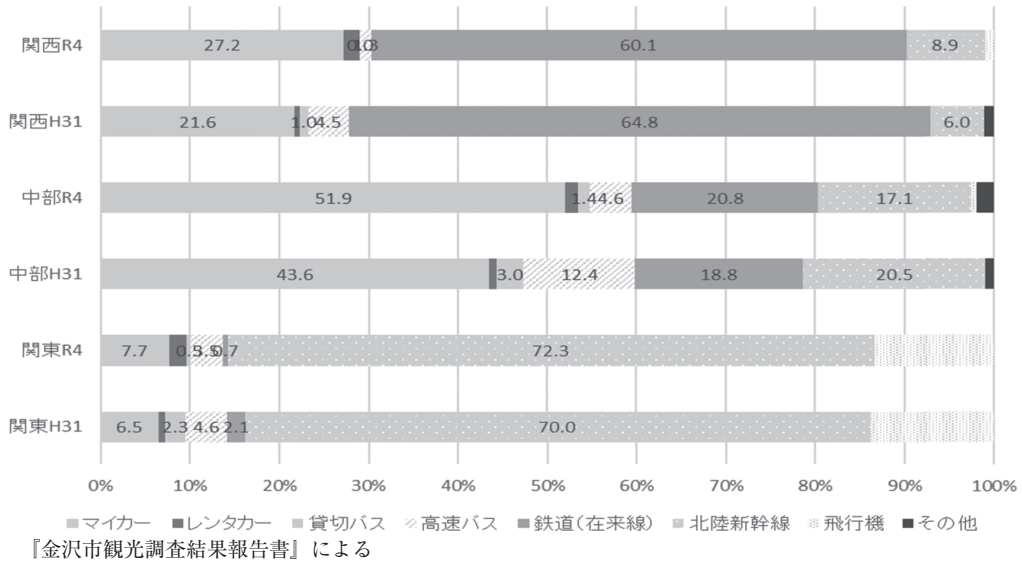
表 11 金沢への来訪回数 (%)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
初めて	42.8	43.5	44.6	42.2	46.6	43.3	48.7	42.0	38.0	43.4
2回目	23.6	20.4	23.0	23.6	23.4	23.5	22.6	27.3	23.6	24.9
3回目	15.6	13.9	11.8	12.5	11.2	11.6	11.8	10.7	14.5	12.2
4回目	3.6	4.1	6.2	4.3	4.2	5.1	5.0	4.2	6.2	4.9
5回目以上	14.4	18.0	14.4	17.3	14.6	16.4	12.0	15.9	17.8	14.5

『金沢市観光調査結果報告書』による



図 2 発地別交通手段の変化（関西地方，中部地方，関東地方）



加していることを背景に，新幹線開業後に宿泊者は増加しているが，金沢市内に宿泊する傾向が強くなり，その意味でも周辺地域への影響は限定的である。地域別宿泊施設数をみても（表 10），新幹線開業 2 年前の平成 25 年に石川県全体で宿泊施設は 589 軒あり，そのうち金沢地域が 133 軒（22.6%）を占めていた。5 年後の平成 30 年には石川県全体で宿泊施設数は 693 軒と 17.7% 増加したが，増加の多くは金沢地域（275 軒，142 軒増加）で生じた。その結果，石川県全体に占める金沢地域の比率は 39.7% へ上昇している。同期間における金沢地域の宿泊施設数は 2 倍以上の増加であり，加賀地域，白山地域，能登地域の 3 地域がほぼ横ばいなのと対照的である<sup>5)</sup>。宿泊施設数の増加は，金沢地域では令和に入っても続いている。

「日帰り旅行」は距離的に近い中部地方に多い。新幹線利用者が多い関東地方からの「日帰り旅行」は毎年 10% に満たない比率である。日帰り客と比較して宿泊客の消費単価が大きいことを考慮すると<sup>6)</sup>，新幹線開業が遠方からの観光客を増加させ，地域に一定額以上の経済効果をもたらすことは明らかである。金沢への訪問回数は，開業直後は金沢への訪問が「初めて（対前年比で+1.1%）」や「2 回目（同様に+2.6%）」が若干多くなっているが，翌年以降も「2 回目」以降の訪問者の値は横ばいであり，リピーターを確保できていることがわかる（表 11）。

#### 4. コロナ禍の影響

2019 年 11 月頃に中国・武漢で発生したとされる新型コロナは，令和 2 年 3 月以降，日本

## 北陸新幹線開業が金沢の観光事業に与えた影響

各地で多数の患者を発生させ、交通事業や観光業に多大な影響を及ぼした。金沢への観光需要も例外でなく、令和元年（106.8万人）と比べて令和2年（54.7万人）と翌3年（51.9万人）はほぼ半減した。令和4年についても86.4万人に留まり、コロナ前の令和元年の約8割の水準である。石川県内でも金沢地域は加賀地域と並んで減少が大きい。金沢市内の19観光施設の利用者数推移を見ると、主要3施設、それに次ぐ6施設、それ以外の10施設すべてで令和2年の利用者数は前年から半減以下となったが、令和3、4年の戻り具合には差が生じている。観光施設の利用者数は令和元年と令和4年を比較すると7割に満たない水準だが、その中でも主要施設以外の利用者が大きく落ち込んでいる。

コロナ禍の交通手段選択では、日常生活の移動で、密になり易い鉄道などの公共交通機関を避けてマイカーや自転車などを利用する動きが生じた。金沢への観光需要についても、高速道路（北陸自動車道、東海北陸自動車道）が整備されており、距離的にも近い中部地方や関西地方を中心にマイカーやレンタカーの利用比率が上昇して、高速バスや貸切バスの比率は減少している（図2）。ただし鉄道利用で大きな差は生じておらず、交通手段選択への影響については、もう一段の分析が必要である。

金沢への来訪回数は、コロナ禍以降に「5回以上」の回答が増えており、以前から金沢への満足度が高いリピーターが再訪していることを示している。

## 5. 北陸新幹線開業による効果

北陸新幹線の金沢延伸は、アクセス改善を通じて観光客増加をもたらした。これは関東地方からの旅行者に顕著である。ただし、その効果は金沢市を中心とする一部に強く表れる傾向にある。さらには金沢市内でも、特に有名観光地とされる一部に集中していると言え、オーバーツーリズムが指摘されるまでになっている<sup>7)</sup>。交通需要は派生需要であり、新幹線開業によるアクセス改善や各種旅行キャンペーンの実施は、観光目的で金沢へ訪問するきっかけになったと言えるが、それが周辺地域にまで波及するかや、リピーターを生み出し継続的な観光客増加につながるかは、別の問題であることを示していよう。

注 —————

- 1) 例えば日本政策投資銀行（2016）など。同報告書では観光需要拡大による石川県の経済波及効果を総額678億円と試算している。
- 2) 『鉄道プロジェクトの評価手法マニュアル』に記載の平成22年の毎月勤労調査に基づく全国値。
- 3) 東京駅から浜松町駅まで5分、浜松町駅からモノレールの空港快速で羽田空港まで20分、小松空港から金沢駅まで空港バスで40分として、空港での保安検査場通過時刻や乗り換え時間等を加味すると約2時間となる。
- 4) 開業後の平成27年10月1日から12月31日まで、「美観」「美食」「美技」「美湯」「美心」の

- 5つの美をテーマに、JR6社による北陸ディスティネーションキャンペーンが開催された。
- 5) 宿泊施設の収容人員をみると、石川県全体では平成25年の58,748人から平成30年は58,689人と微減である。加賀地域、白山地域、能登地域も同様に微減傾向にあるが、金沢地域のみ16,336人から20,138人へと2割以上(23.3%)増加した。
  - 6) 例えば日本政策投資銀行(2016)では、日帰り旅行の日本人観光客の平均消費額1万円に対して、宿泊客は3万2千円と試算している。
  - 7) 例えば平成29年5月25日の日本経済新聞地方経済面では、「北陸新幹線、悪影響の懸念も、金沢市」で金沢市の有識者会議が経済面のプラス効果と共に、混雑や宿泊・飲食価格の高騰、市民生活への悪影響の懸念を指摘している。また近江町市場で観光客増加により通信回線混雑が生じて店舗の決済業務に影響が出たことや、兼六園などに集中する観光客を分散させるため無料の周遊バスやレンタサイクルの試みが報道されている。

#### 参 考 文 献

- 石川県観光戦略推進部『統計からみた石川県の観光』(各年版)、石川県観光戦略推進部  
金沢市経済局営業戦略部観光交流課『金沢市観光調査結果報告書』(各年版)、金沢市経済局営業戦略部観光交流課  
国土交通省航空局監修『数字でみる航空』(各年版)日本航空協会  
国土交通省鉄道局監修(2012)『鉄道プロジェクトの評価手法マニュアル』運輸政策研究機構  
日本政策投資銀行北陸支店地域企画部(2016)「北陸新幹線金沢開業による経済活性化が石川県内に及ぼす経済波及効果」日本政策投資銀行北陸支店レポート  
([https://www.dbj.jp/upload/investigate/docs/hokuriku\\_1612\\_02.pdf](https://www.dbj.jp/upload/investigate/docs/hokuriku_1612_02.pdf) 令和5年10月29日最終閲覧)